

第4回県政ひざづめ談議結果概要

開催日時：平成21年6月15日 14:30～

開催場所：山中湖村情報創造館

〔司会〕

それでは、ただいまから『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。
本日の進行役を務めます広聴広報課の堀内です。よろしくお願いいたします。
それでは、まずは知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

皆様こんにちは。

今日はお忙しいところをお集まりをいただきましてありがとうございました。今日は、この山中湖村でペンションあるいは民宿などを経営しておられる観光業界の皆様方と、特に若い人たちと色々と懇談をするということでもあります。観光事業というのは本県にとっては最も大事な事業でありまして、山中湖村の観光事業が活発化をするということは、本県にとっても大変大事な課題であります。皆様方、お若いだけに日頃いろんな事業の経営の面でご苦労も多いと思いますし、色々感ずるところもおありだろうと思います。今日はざっくばらんに県に対して普段お考えになっていること、まあ例えば県の観光行政でこんなことを是非やってもらいたいというようなこと、その他、何でも結構でありますからお聞かせをいただきたいというふうに思います。皆さんのいろんなご意見を参考にしながら、我々としてもこれからの観光行政を進めていきたいというふうに思っているわけでありませう。

この『ひざづめ談議』というのは、何にしてもざっくばらんにもう意見を交わすということでありまして、決して遠慮する必要はありませぬので、どうか日頃お考えになっていることを存分にお話をいただければありがたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

〔司会〕

それでは、ここで本日出席をしております県と村の担当者を紹介させていただきます。

地域資源を活用した観光ですとか、山梨ブランドのPRなどに取り組んでおります八巻観光企画・ブランド推進課長です。

大型観光キャンペーンや都市農村交流推進などを担当しております小林観光振興課長です。

山中湖村の高村観光課長でございます。

それでは、ただいまからざっくばらんな意見交換に入らせていただきたいというふうに思います。

本日は山中湖村を魅力ある観光地にするために、というふうなことをテーマといたしまして進めさせていただきたいと思います。時間はおおむね1時間を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

〔知事〕

新型インフルエンザで大変に影響を被っているわけなんですけれども、皆さん方旅館組合あるいはペンションの組合であります。どうですか。やっぱりかなりの影響が出ておりますですかね。旅館組合ということになると、やっぱり修学旅行とか、そういうようなものを受け入れる方が多いわけですかね。相当厳しいと思うけど、どうですかね。

〔参加者〕

夏休みに受けている高校があったんですけれども、いわゆる新型の影響ですね・・・、長野のほうの高校だったんですが、1年前からの予約をキャンセルしたいと。というのは学校から許可が出ないんだそうです。今6月なんですけれども、もう1カ月後には夏休みが始まるんですけれども、現状で3団体か4団体ぐらいそういう形で、我々のスポーツ合宿にも影響が出ていると思います。

〔知事〕

やっぱり学校の合宿ですか。

〔参加者〕

そうです。

〔知事〕

影響が出ているんですね。それは学校から許可が出ないと言っているんですか。

〔参加者〕

そうです。と同時に、夏休みを利用して授業をする可能性もあるということで、ですからその部分もスケジュールが立たないということなんです。

〔知事〕

とりあえず、修学旅行みたいなものは、まあ大体シーズンは終わりましたけど、やっぱりそれを受けている方々はおられるわけですか。

〔参加者〕

はい、受けてます。今年は4つキャンセルがありまして、その後2つ日程が変更ということで対応しました。ほかのところでも、そのぐらいの数はあると思います。

〔知事〕

この地域に来る修学旅行の生徒さんたちというのは、どの辺の人たちが多いですか。

〔参加者〕

近畿圏が多いですね。

〔知事〕

近畿圏がね。小学校、中学校・・・

〔参加者〕

中学生です。

〔知事〕

中学生でね。まあそういうことで大変ですね。やっぱり夏のそういう学生の合宿、スポーツ合宿、やっぱり相当ほかの方々も影響がありますかね。

〔参加者〕

直接インフルエンザの影響というよりも、学校の二学期制。今、高校の合宿を主に受けているんですが、また平野地区全体が教育旅行関係の合宿を受けているんですけども、スポーツとか、あとゼミとか、勉強会とか、色々あるんですけども、基本的に学校の行事自体が昔と違って三学期制ではなくて、前期、後期になってしまっている。もちろん大学も昔みたいに7月から9月まで休みというのではなくて、7月も下旬まで試験があると。9月は9月でまた早く始まってしまう。学校のスケジュールにも振り回されてしまって、昔みたいな3カ月の合宿期間、夏休み期間が今はもう1カ月半ぐらいしかなくなってしまったという、非常に厳しい期間短縮ということがありますね。

〔知事〕

大学がですね。

〔参加者〕

大学もそうです。大学も今までは7月の中旬から合宿があったんですけども、結局授業の関係で7月の下旬まで国立大学とか私立大学も試験があると。へたすれば8月の第1週まで追試だ何だかんだあれば、実質もう8月の頭から9月の下旬ぐらいまでしか合宿がなくなってしまう。9月始まったら試験とか色々、これも高校は全く同じパターンです。かなり痛手です。

〔知事〕

二学期制になったわけじゃないでしょう。大学で二学期制にしているところはあるんですかね。

〔参加者〕

ありますね。うちは神奈川の高校を受け入れているんですけども、基本的に7月いっぱいやって前期。そして9月から後期ということですよ。

〔知事〕

9月から後期、もう3月まで。

〔参加者〕

そうです。そして試験、何やかんやで7月下旬まで。ただ今の動きとしては、まだ例えば10校中5校位がそうなんですけれども、基本的にはもう神奈川のほうは、もう二学期制にどんどん移行すると。

〔知事〕

神奈川の高等学校は二学期制に移行しつつあるわけですか。

〔参加者〕

少子化でかなり人数が少なくなって、もう統合がものすごく激しいですね。まあ、山梨、地元もそうですけどね。かなり厳しいです。

〔知事〕

大学の場合には休みそのものが少なくなっているんですかね。

〔参加者〕

休みが少なくなっています。

〔知事〕

何で少なくなっているんでしょうね。勉強することに今なったんですかね。

〔参加者〕

今までは試験が7月の10日前後までだったものが、結局それが何の関係か知らないですけども、7月の下旬までテスト期間なんですよね。その2週間でちょっとかなり厳しいですね。

〔知事〕

昔に比べりゃあ大学生もちっと勉強するようになってきたんですかね。まあ昔は大学なんか夏休みって2カ月は丸々ありましたからね。そうですか、なるほどね。まあそれにやっぱり何だかんだ言っても、この山中湖は若い人相手なものだから、もう少子化でね、子どもが少なくなっていますからね。若い人が特に少なくなっているから、なかなか大変かなという感じがしますよね。

まあそれにしても、しかしやっぱり全国でも有数の・・・、一番多いのはテニスですかね。あとテニスと、何ですか。サッカー、ラグビー・・・。

〔参加者〕

サッカーや野球。

〔参加者〕

あと体育館もありますし・・・。

〔知事〕

体育館を使ってね。

〔参加者〕

あと、音楽関係も。

〔参加者〕

ほとんど網羅しています。ただ同じような仕組みが全国各地にできていますので、競争相手がですね。かなりその点ではお客さんの密度が少なくなっています。

〔知事〕

統計を見ましても、やはり富士・東部地域というのは全体としては増えていっているわけなんですよね。19年の「風林火山」の時はむしろ国中のほうが多かったわけだけども、しかし全体としては増えている。その中でやっぱり山中湖というのは、かつて平成の始めぐらいから非常に良かったんだけど、増えてるけれどもシェアとしては段々段々落ちてきているような感じがあってね、ちょっと厳しいですよ。河口湖のほうが非常に観光客が増えてきましたからね、ここ10年、20年ぐらいの間にね。まあしかし、このところまた山中湖も見直されるような動きがちょっと出てきているような感じがしますね、見ているとね。そうですか。

ほかにいかがですか。

〔参加者〕

今話した状況は、まず日本人を相手にしたアイデアであって、少子化とか叫ばれている中で段々税収が減っていくと思うんですよ。そういった中で政府が主導して、ようこそ日本、ピジットジャパン構想を今立ち上げているわけですけど、その影響もあり私たちのほうにも外国人が来るようになってます。

今回、是非お願いしたいのは、外国人が山梨県に来た時に、余りにもインフラが整っていない。受け入れる側の気持ちが、まだもてなすという、例えば英会話とか、表示、看板だとか、そういったものがほぼゼロに近いので、特に山梨県に来る外国人の方は相当困っているという話を聞きます。あとよく両替をするために銀行とか郵便局にお客さんを連れていくんですが、そこでもやはり一人300ユーロまでしか両替ができませんということ英語で言えなかったりするんですね。それを見た外国人は、日本人は英語を勉強しているのに何で喋れないのかというような指摘をよく受けます。まあ、すぐに改善しろということではなくて、これから社会人になる学生の人たちに対して、そういった外国人慣れをするような教育ができれば、すごく5年後の山梨県って素晴らしいことになるんじゃないかなというふうに期待しております。

〔知事〕

なるほどね、そうですか。お宅には外国人がかなり泊まりますか。

〔参加者〕

来ます。欧米が多いですね。

〔知事〕

ヨーロッパが多いんですか。

〔参加者〕

アジアはまだこれからですね。個人旅行がうちはほとんどなんですが、これから増えると思います。

〔知事〕

そうですか。それは何かやっぱり特別な旅行社と提携しているとか、そういうことなんですか。

〔参加者〕

国の外郭団体がありまして、そことも提携しています。ただそれだけではなくて、自分でホームページを立ち上げて、英語のコンテンツで受け入れるようにしております。そんな中で山中湖は一部だけしか光ファイバーが整備されていないせいで、かなり通信に支障をきたしておる状況なので、できればその辺の働き掛けも是非お願いしたいと思います。

〔知事〕

なるほどね。ブロードバンドは、しかもうかなり整備されてきているでしょう。

〔参加者〕

はい。ところが・・・

〔知事〕

確か全国あらゆる所でブロードバンドを充実するというのが、2010年でしたかね。それまでには山梨県もすべての所で大丈夫なようにするんだけど、山中湖村もそういう計画は計画なんでしょう。

〔参加者〕

だったと思うんですが、ニュース発表によると、2、3年計画が遅れるそうです。経済的な理由だそうです。観光地としては外国人の方向けに、今インターネットは必須なんです。

〔知事〕

それはもうブロードバンドというのは必需品ですね、確かにね。そうですか、なるほどね。

いやけど確かにそういうヨーロッパ系の人たちが来ているということになると、確かに英語表記とかね、そういうことがなかなか問題だと思いますね。一番困るのは何ですかね。まあ英語表記をしたら、きりがいいわけだけれどね。別に車なわけじゃないでしょう、車で来るんですか。

〔参加者〕

いいえ、バスですね。

〔知事〕

バスでくるんですね。まあ道路標識なんかずいぶんできていますよね。

〔参加者〕

そうですね。あとは英語のパンフレットとか地図とか、できるだけ詳細に書いてある・・・

〔知事〕

もちろん山中湖は英語のパンフレットは作っているんでしょう。

〔参加者〕

英語のパンフレットはあります。

図書館で見ましたよ。

〔参加者〕

すみませんでした。(笑)

〔参加者〕

関連なんですけど、うちにもイギリス人がレンタバイクで二人乗りで来て泊まったことがあります。外人にとっては、やっぱり富士山に上がる所の標識も、ちょっと曲がるところが難しいのです。富士山は国際的な観光地なので正確な地図や、英語標識は必ず必要だと思います。

〔知事〕

スバルラインの入り口の英語表記はないんですかね。あることはあるけど小さいんですか。

〔参加者〕

僕はちょっとよく見たことないです。

〔参加者〕

スバルラインとは書いてありますけど、それは富士山5合目につながる道とは書いていないです。

〔参加者〕

道路には書いてありますけど。

〔知事〕

まあ、そういう道路の標識なんかも確かに外国人の目から見て工夫をする必要があるでしょうね、きっとね。

〔参加者〕

あとはですね、分からなかったら聞くのが外国人のスタイルなので、聞かれた時にある程度喋れるような、僕らが受け入れる用意をしておくことが必要だと思います。

〔知事〕

そうですね。まあ日本人は、そもそもやっぱり英会話はだめだからね。どうすりゃいいんでしょうかね。

〔参加者〕

ですから教育の中で積極的に外国人を受け入れて、まず外国人慣れをさせるということですね。あと大体聞かれるフレーズというのは、ある程度パターンがありますので、その辺、想定問答集じゃないですけども、あんちょこのようなものを作って、そしてみんながそれいつでも聞かれたら答えられるようにしておく準備があればかなりできると思います。

〔知事〕

確かにね。それは大事かもしれませんね。

〔参加者〕

そのさっき言ったビジットジャパン関連で、財団法人のウェルカム・インサービスというものがあります。そのウェルカムインの予約センターの関係で、英語とか韓国語とか中国語で、同じ画面で日本語と他言語の文例がありまして、指さしてお話しできるのがあるんです。「富士山に行きたいんですけど」とか、そういうふうに。

教育に頼ると10年も20年も先になっちゃうかもしれないので、売店とか、そういうところなら是非ともそういうものを整備して・・・。

〔知事〕

ビジットジャパン・キャンペーンの一環としてやったということでしょうね。確かに日本人全部というのは難しいと思いますから、やっぱり少なくとも旅行関係者、観光関係者にはある程度基礎的な聞かれることについては返事ができる程度のことは、基礎知識とし

て持っていなきゃ困るよね。中国人、韓国人だって今みんな英語も喋れるからね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

中国語、韓国語を勉強しろと言われてもこれは難しいけれども、英語ができれば大体大丈夫ですよ。だから中国人に聞いても、「別に中国語の標識なんかいらない」って言うんだよね。「英語の標識さえちゃんとしっかりしておいてくれれば、それで十分だ」と言いますよね。なかには親切に英語、中国語、韓国語全部あるでしょう。あれはやり過ぎなんだということを行いますよね。

どうですか、今のことに関連してどうですか。外国人を迎える面での問題点は。

〔参加者〕

平野旅館民宿組合なんですけども、結局受け入れ的にハードの面。要するに生活様式が全然違うわけですよ。施設的な面でなかなか受け入れがたいことがあるんです。例えば、まずトイレ。

〔知事〕

トイレね。トイレはだけど今水洗で、ウォシュレットになっているでしょう。

〔参加者〕

そうなんですけども、基本的に平野旅館民宿組合の旅館自体がもう25年も30年経つ旅館が多いので、その当時ですとやっぱり洋便器というのはいないんです。5個のうち一つ洋便器とかなので、その対応がまだできていない。ただ新しくこのところ、5、6年前に造っているところは、もう洋便器のほうを多くしております。ウォシュレットみたいなものを入れるとか・・・

〔知事〕

それは改修しなきゃいかんね。最近若い子どもたちだって、みんなそうだものね。古い和式の便所というのは使い方が分からないでしょうな。

なかなか改修する金がないですか。

〔参加者〕

そうなんです。厳しいですね。ただ畳とか、そういうふうな面は全然改修する必要はないと思うんです。

〔知事〕

客室はかえって和式のほうが喜ばれるというようなことがあるかもしれませんね。

〔参加者〕

あと問題はお風呂なんですよ。

風呂も個人的に入りたいという方もいらっしゃいますし、あと大風呂に鍵かけて中で一人とか二人入っちゃうとか、そういうふうなパターンも多々あるんで。まあ案内をすればいいんですけども、なかなか生活様式が違うので・・・。

例えば外国人専用で、個室のお風呂がありますよというものでチョコチョコと作れば何とかできるんですけども、なかなか難しい。まあ言葉の面が一番難しいですけど。

〔知事〕

便所と風呂ぐらいは改修したほうがいいと思うけど、改修するについては、かなり有利な融資制度みたいなものはあるんですかね。

〔参加者〕

基本的に今借りても3%とか、通常の銀行であればね。やりやすくもいいんですけど、結局収入の面で半分以下になっていますので、ピークの・・・。

〔知事〕

ピークのね。いつごろが一番良かったですか。

〔参加者〕

平成5、6年がピークで、それ以降もうかなりの急展開で、もうピークの半分ですね。

〔知事〕

いや確かに私も覚えています。平成5、6年頃というのは全く賑やかでした。いろんな東京の銀座の有名店みたいなものがずいぶん立地したりね、本当にすばらしかったけどね。まあしかし、山高ければ谷深しでね、余りにもこう良過ぎてだーんと落ちるからね。大変だよ。しかし、またちょっと上がってきましたね、何となく雰囲気だね。そういう感じはするんだけど。

〔参加者〕

外国人の誘致というのも、もちろん重要なことだと思うんですけども、ゴールデンウィーク頃から高速料金が今安くなりまして、今まで見えなかった関西方面ですとか、遠方から来られるお客さんがうちみたいに小さいところでも目立つようになってきました。ということはやっぱり地方の方は富士山を見たいという思いが潜在的にあって、そしてこの高速料金が安くなったのをきっかけに来られるようになったと思うんですね。なので外国ももちろんそうなんですけども、日本国内にもっと発信をして、富士山というブランドでもっと呼べないかなと最近特に実感としてありますね。

〔知事〕

いや本当、確かに関西の方が、あるいは中国地方のお客が非常に増えて来たということ

は言いますよね。確かにその通りでね。だから観光キャンペーンも、関西方面あるいは中四国方面ですね、そっちへウェイトを移すようにしていますけどね。近々関西方面でかなり大きいキャンペーンをやったりしますけどね。

〔小林観光振興課長〕

この次、名古屋でやりますね。

〔知事〕

名古屋でね。そうそう・・・。

〔参加者〕

来ている車のナンバーが色々・・・。昨日も見ただけど広島とか、いろんな、山中湖もかなり多くの車が出ています。

〔参加者〕

実際統計を取っていないから分からないんですけど、首都圏のお客さんは、もしかしたら減っているかもしれない。

〔参加者〕

まちがいなくトータルにすると減ってきています。

〔知事〕

減っているでしょうね。その連休の間も確か、まあ連休の間も山梨の観光客は対前年比より多少増えましたけれども、インターチェンジの乗り降りの車というのは減ったんですよ。だからやっぱり基本的には首都圏の、車を使った観光というのは、山梨をパスしてもっと遠くに行ったということでしょうね。まあしかしその分やっぱり関西や中四国からこっちに関心を、特に富士山に関心を持っている人は確かに多いわけだから、追々かなり来るでしょうな。

〔参加者〕

それに関連してなんですけども、お客様とお話をしていると、富士山は静岡県から見るものと思っている人がすごく多いんですね。どっちからも見えるんですけども、見える確率としては静岡県側は曇っていることが多いですし、言っちゃ悪いですが、形が悪いですよ。真ん中に穴が開いていたり、大沢崩れで崩れていたりしてね。やっぱりきれいに見えるのは山中湖、河口湖からの富士山だったりするんですけども、その辺の知識というのはここに住んでいる人だから知っていることであって、東京に住んでいる人ですらやっぱり静岡県から見るみたいなものがあるんですね。そして富士山を見るには箱根とか伊豆とか言われるんですが、あんなちっぽけに見えるのを見たってしょうがないわけで、これだけ大きく、近く見れる所というのはそんなにはないんです。それが情報としてちゃんと、「富士山を見るなら山梨のほうがきれいですよ」というのが全国の人に周知徹底されてな

いというのが、伊豆や箱根に比べて山中湖のお客さんが少ない理由の一つかなと私は思うんですね。

個人的にできるかどうか分からないんですけども、専門の気象予報士みたいな人を立てて、晴れか雨かじゃなくて、「富士山が見えるのかどうか」みたいな情報が発信する。「明日は見えます」とか、「何時には雲が掛かります」とか、そういう予報を発信できたりすれば、当日でも出て来て見に来やすいと思います。晴れていて来たのに見えないということも多いし、曇っていても見えている日もあります。そこは晴れや曇りよりも、「富士が見えるか見えないか」という情報の発信とかしたりすると、まあライブカメラみたいなものがあるので、それを見るという話もありますけども、この後見えなくなるという部分、地元の人だと分かるじゃないですか。御殿場のほうから雲がもくもく出て来て、今日はもう8時、9時には見えなくなるよなんて分かたりするんで。そういう専門の人がうまく情報を発信できたりすれば、少し面白いことになるかなと思います。

あともう一つですね、よく江ノ島のほうから朝のニュース番組とか見ていると、中継で「今日も富士山見えてます」とかやっていますけど、そういうのを、あんな遠い所からじゃなくて近くから雄大に見える場所があるので、もう何かテレビ局と提携してカメラを設置し、毎朝のように「山中湖からの晴れている富士山です」とかと見せていけば、ちょっと山中湖に行ってみようなという気にもなりやすいと思うんですね。やっぱりマスコミへのアピールの仕方みたいなのは、箱根とか伊豆に比べると弱い。知名度が低いから向こうに食いつきやすいので、そこをうまく県側から働き掛けたりしてね、東京とか関西とかに流れる放送、全国区の放送で流れるようにしてもらおうと少しは違うのかなと思います。

〔知事〕

テレビのライブはね、これはあっちこっちからやっているわけだけども、その気象予報士はともかくとしても、予報はできるんですかね、富士山が明日見えるかどうかですかね。かなり正確に・・・

〔参加者〕

それはこれから勉強をされていて、やればできる人もいるんじゃないですか。

〔知事〕

そういうことは何と言うかな、非常に富士山の気象というのは微妙ですよ。いったん予報して、大丈夫ですよと言って曇っていると、これは何だ、どういうこんだという話になりますから・・・

〔参加者〕

天気予報ですら当たらないので、そこまで気負ってやることはないと思うんですけども・・・

〔知事〕

まあそうは言っても、見えるかどうかというところをね、そこが非常に難しいところで…。かなり正確に予報できるもんなんではなかね。明日は見えますよとか、例えば何割とか…。

〔参加者〕

でも朝の6時に空模様を見れば、その日の午後隠れるかどうかは大体分かりますよね。

〔知事〕

ああ、そう。なるほどね。

〔参加者〕

でも面白いですね。

〔参加者〕

地元の人だったら皆さん見ていれば、今日は曇りやすいとか…

〔知事〕

なるほど、なるほど。前の日にそういう情報が得られれば、これは非常にいいと思いますね。

〔参加者〕

だからこのお客さんが減っている状況だったら前日じゃなくて当日に結構出てくる人も、この不況時期になって多くなってきたんですね。なので朝の7時や8時のニュースで流してくれたりすれば、もう空いているのが分かっているので、当日でも少し動く動機にでもなってくれればと思います。

〔知事〕

県の観光のホームページに富士山のライブはやってましたっけ。

〔司会〕

ライブはリンクをはって見えると思います。

〔知事〕

まあ色々ありますよね。だからそういうライブを見るところで、明日の富士山がきれいに見える確率が8割だとか、そういうふうな予報ですよ。そういうものを出せるかどうかということだね。そのためにはやっぱりかなりのそういう能力がある人がいなきゃいかんわけけども、それができるかどうかですな。この人に聞けば間違いのないという人がいればね。

〔参加者〕

多分、平野のおじいさんやおばあさんは・・・

〔参加者〕

長老の意見とか書いておけばいいんじゃないですか。

〔知事〕

テレビ局は三ツ峠に設置しているのはNHKでしたっけね。

〔参加者〕

NHKですね。

〔知事〕

たまにやっているように思ったら、最近やらなくなったね。

〔参加者〕

前は結構首都圏版で最後に閉める時とか、くっきり見えている時は見た記憶はあります。

〔知事〕

最近は何もやらないね、首都圏版でも。

確かにその通りですね。テレビを持っているわけだからね。

さっきの話で、ああそうかなと思ったのは、静岡のほうが曇っている確率は高いですか。

〔参加者〕

と私は思います。いつも御殿場のほうから雲が来ますよね。

〔知事〕

まあ、そうかもしれないですな。確かに。それは海があるから、やっぱりそれだけ雲が来るんだろうな。形がこっちはいいのは、もうその通りですよ。裏富士がいいということはみんな言いますね。

〔小林観光振興課長〕

先日、静岡県の観光政策室長とお話をする機会があったんですけども、富士山空港においてある各旅行会社のパンフレットですね、富士山みんな山梨県側だそうです。静岡県側は嘆いていましたけどね。

〔参加者〕

ただ修学旅行で来る中学生だとか、一般のお客さんもそうなんですけど、富士山は静岡にあるものだと思っているんですね。山中湖は静岡県だと思っている人が結構多いので、

その辺の「富士山イコール山梨県」という構図を植え付けることも必要と思います。

〔知事〕

そうだね。確かにそういうことは言いますよね、特に関西の人たちはね。西日本の人たちってというのは富士山というのは静岡県だとばかり思っている人が多いんだけど、やっぱり東海道新幹線走って見たりするものだから、どうしても静岡という印象になっちゃうんですね。しかしそれでもやっぱり最近PRをしていった成果が少しずつ出てくるようなところがあって、特に中国なんかでは「富士の国やまなし」というキャンペーンをしているものだから、富士山は山梨県だと思っている人が多いですね。静岡県知事さんがこの間言っていたけども、富士山静岡空港のキャンペーンで中国に行って話をしていたら、かなり格の高い人が「富士山ってというのは山梨県じゃないんですか」と言っていてびっくりしていました。静岡にもあるんだとびっくりしていたというけど・・(笑)まあそういうPRはしていかなければいけませんね、確かに。

〔参加者〕

この前までJRと提携して行われていたキャンペーン・・

〔知事〕

ディステーションキャンペーンですね。

〔参加者〕

JRが何年かに一回地域を選んでPRしますね。まあ山中湖にJRの駅がないからしょうがないと言えましょうがないんですけども、非常に置いていかれた感がありまして・・

〔知事〕

ああ、そうだったですかね。

〔参加者〕

それに限らず国中地域から郡内の端っこの山中湖というのは、いつも最後というか、というふうに思っちゃうんですね、僕としては。こんなに素晴らしい観光資源があるので、是非一緒にという・・・。

〔知事〕

そういう意識は余りないし、JRも、JRが走っている所を中心にしてくれとか、そんなことは全く考えていないと思うんですね。

しかしそういうことがあるとすれば、どうなんだろうね。

〔司会〕(前 観光振興課長)

JRもですね、やっぱり富士北麓というのは非常に注目していて、売り込みも激しいです。ですからJRで来て、富士急で来て、そのあとの二次交通、今山中まで吉田から「ふじっ

湖号」で、来ていますけど、ああいう二次交通をしっかりと整備してもらえれば、JRはしっかり売りますというふうな形をとっています。やっぱりお客さんに来てもらえるような魅力、ダイヤモンド富士とか、色々なエコツアーとか、色々新しいメニューが出てきましたけども、やっぱり新しいそういう打って出れるような素材を作り出すような努力をしないと、なかなか情報が全国に出ていかないということはあるんだろうなと思います。ですから、魅力的であればJRも一生懸命売ると。旅行会社でも一生懸命お客さんを送ってくれるという言葉があったと思います。

〔参加者〕

この間の芝桜祭りの時は、東京から富士急行の中まで直通で乗り入れる御座敷電車があって、そこからバスに乗り換えて行くツアーというのを売っていましたが、それだと宿に泊まってくれないんですね。

〔知事〕

確かにね。それはその通りだ。

でも、特に山中湖をしいたげたつもりは全然ないでしょう。(笑)

〔参加者〕

あと、よくお客さんが言うんですけども、基本的に山中湖は交通の便が悪いと。公共交通が整っていないとよく言われますね。まあここ2、3年は東京駅とか横浜から直通バスが、高速バスができたんですけども、その前は全然なくて御殿場線に来て、そこから乗り換えて、乗り換え、乗り換えと。要するに朝7時8時に出ても、着くのがもう12時に近くになってしまって、目と鼻の先なんですけども結構交通の便が悪い。それからあと新宿からでも、高速バスですとすんなり来るんですけども、電車の場合、結局乗り換え、乗り換え、そして最後の締めで富士吉田からここまで1時間近く掛かってしまい、ものすごい時間のロスがある。だったら、道志街道を使って京王線橋本からの直通バスとかがなぜできないのかなというような、かなりお客さんからの声はありますね。

〔知事〕

だけど京王線の橋本からとなると相当距離がありますね。御殿場からのバスはないんですか。

〔参加者〕

ありますね。1時間に1本。だけど旭が丘で降りて平野まで歩くというと4キロなので厳しいです。

〔知事〕

それはそうだ。確かにね・・・平野になるとね。まあ道志のほうからということになりますかね。確かに。

〔参加者〕

県で登山電車でも作ってもらって・・・

〔知事〕

登山電車・・・まあ電車を今から御殿場からこっちにもってくるというのは、・・・ちょっと難しいでしょうね。

〔参加者〕

橋本からでも。

〔知事〕

橋本から。うーん、それは現実問題は難しいでしょうね。

〔参加者〕

すみません。電車と言えば、今富士山まで電車を延ばすという構想。あれは具体化しているんですか。

〔知事〕

まだ具体化はしていませんね。まあできるとしても、やっぱり10年とか、あるいは場合によっては20年とか掛かるんでしょうけど。一つの考え方であると思いますけども、まあこの地域の皆さんのコンセンサスが得られるかどうかですね。メリット、デメリットがありますからね。まあそのところをどう考えるかということですよ。

ただ、まあそれぞれご商売をやっている方にとってもプラスの方とマイナスの方というわけだし、この地域でよく議論をしてもらって、体制としてやろうと、こういうことであればそれはもう前向きにやるということなんですが。まあ大きな問題だけに、そんなに慌てないでじっくり皆さんの意見がまとまってくるのを待っているという感じなんですけどね。市町村長なんか聞いても、やっぱり積極的な人と消極的な人とありますよね。皆さんはどうなんですか。

〔参加者〕

僕はあったほうが面白いと思います。

〔知事〕

あったほうが面白い。そうですね。まあ金が掛かって、その金をどうするかということもあります。600億とか700億とか言われて・・・。

〔参加者〕

リニアをとっとと引いて欲しい。

〔知事〕

リニアをね。

〔参加者〕

長野がもめている間に甲府までだーっと引っ張って行って。(笑)

そうすれば東京のお客さんみんな甲府まで来るんで、そしたらこっちも少し引っ張りやすくなる。

〔知事〕

まあリニアは結局JR東海が自分の金で全部やるんですよ。5兆円という金が掛かるんだけど、それを彼らにしてみれば東海道新幹線持っているからかなり豊かな会社ではあるんですが、それでもやっぱり会社の社運を掛けてやるわけですよ。結局、国のお金が入って公共事業でやるとなるとある程度いろんなことが言えるんですけども、JR東海の社運を掛けて自分の負担でやるという話になるとね、やっぱりJRの判断というのはどうしても優先してくるんですね。そうすると、例えば甲府なら甲府、あるいは都留なら都留までだけだとか、そこまでやってくれと言われても、それは採算は全く取れませんからね。彼らにしてみれば、本当は都留も甲府も長野も止まりたくないわけですよ。もう東京からまっすぐ名古屋に行くのが一番いいわけなんですよ。まあしかし一県一駅と言い出しましたけれども、まだ決まっているわけじゃありませんが、どこにできるかはともかくとして山梨県に駅ができることは間違いないんです。間違いないんだけれども、まず山梨県まで引っ張ってそこでやってくれとか、それは言ってもなかなか彼らはやらんでしょね。

〔参加者〕

でも山梨県も線路できてんじゃないですか、少し。

〔知事〕

実験線ですね。あるいはその実験線まで品川からずっとトンネルで大深度地下を引っ張ってくるかもしれないわけですけども、それでもやっぱり兆の金が掛かるわけですよ。やるとなればもう一気に工事をすることでしょう、名古屋までね。長野県も恐らく1年以内にまとまりますよ、いろんな意見はあるでしょうけれど。だからまとまっていくということになるんじゃないですか。そうするともう4年後ぐらいには、もう工事が始まると。そして2025年だから、あと16年後ですか、もう開通しますね。16年経たずに場合によっちゃ開通するかもしれない。私も国会議員の時に、まあリニアなんて全く動く可能性がなかったものだから、せめて実験線を延ばして行って、その時は公共事業で考えていたわけだから、実験線を延ばして行って、東京から甲府まで実験を兼ねてやったらどうかというようなことを盛んに言っていた時があるんだけど、まあ今はちょっとそうじゃなくて、もう全部やるということでしょうね。

〔参加者〕

私、民宿をこちらでやっていますけど、ちょっと平日暇なのでエコガイドをしています。

ここのペンションの皆さんの受け入れている修学旅行のガイドとかしていますが、最近やはり人気が高くなって、特に樹海の中は大混乱ですよ。交通整理が必要なくらい、中に入って混んでいます。ですから環境面の話ですが、モデルルートになっているところの歩道ですね、歩道を自然を壊さない形で安全性を高めるために整備するような政策を県で取っていただければありがたいと思っています。山中湖も恐らくそういうグループツアーも増えてきたり、大人、中高年の方も歩き出すようになると、ものすごい人数で山を歩くことになりませんが、歩くルールも必要だろうし、環境破壊とまではいかないかもしれませんが、歩道は荒れてしまいますので、歩道を荒らさないような整備の仕方ってあると思うので、そういう土木技術を駆使したようなものを考えていただいて導入していただいたらありがたいと思います。

〔知事〕

いや、それは非常に大事なことです。しかしあれですか、エコツアーが増えていることは聞きましたけれども、大混雑をするぐらいに増えているんですか。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

この山中湖であれば、例えばどの辺をガイドするんですか。

〔参加者〕

山中湖じゃないですね。この辺の修学旅行のツアーは、青木ヶ原樹海です。

〔知事〕

青木ヶ原のほうまで案内するんですか。

いや、それはモデルルートの歩道はきちっと整備することは大事なことです。それからトイレもね。

〔参加者〕

いろんなエコ関係のガイド業者というかNPOがあるんですけど、ほとんどモデルルートが暗黙のうちに決まってきてまして、ある場所だけは銀座のようにじゃないですけど混み合っって・・・。

〔知事〕

大体ガイドをやっている方々に聞けば、このルート、こういうルートを整備すれば大体いいという、そういうものが分かる、大体コンセンサスは得られるものですか。

〔参加者〕

今ならもうそういう段階に来ていると思います。7つぐらいに絞られてきてまして。

〔知事〕

トイレなんか足りないでしょう。

〔参加者〕

トイレは全く足りません。

男の子はいいんですよね。女の子はそういうわけにいかないの、是非歩道と一緒にエコトイレの整備も・・・。

〔知事〕

エコトイレですね。それは大事なことだと思いますね。なるほどおっしゃる通りです。

どうですか、ほかには、今のエコに関連した話はどうですか。やっぱりエコツアーというのは相当増えているんですね。山中湖だってやはりあれでしょう、エコツアー的な、例えば御正体山と言いましたっけ、登ったりとか、石割山に登ったりとか、それが多いでしょ。

〔参加者〕

東海自然歩道がありますが、そこが大雨で崩れたりした後、やっぱり整備されていないんですね。非常に危険な、まあ我々は旅館組合の青年部として二日後に東海自然歩道の下刈りをするんですけども、毎年その時に多少直すんですけども、ほとんど歩けない状態が多いんです。できれば、それを県の方に、まあ役場の課長もいるんですけども、是非立ち会って見ていただきたい。そこさえ整備されれば、我々みたいな旅館業でもそういう所をエコツアーで自分が案内しガイドすることができるんですね。現状、崩れているものから、案内ができないわけですよ。我々旅館業の者が、受け入れ側としてそれを企画して商品にするというのは、非常に今の状況は厳しいと。ですから全部とか言いません。今言われた石割神社があって、その裏を回って花の都公園に下りるコースが多分1時間半ぐらいで行ける良いコースなんです。しかし、非常に危ないところがあるのです。

やはりそこを整備して、頂上にエコトイレがあれば十分じゃないかと。

〔知事〕

今のは大事なことだね。これはここだけじゃないんですよ。もう山梨県中そうです。今度大月とか上野原とか、あっちのほうもずいぶんそういうエコの観光客というか、いわゆるトレッキングとか、ちょっとしたそういう登山というほどでもない山登りの客というのはうんと増えているんですよね。そういうものに対してきちっとした対応をしていかなきゃいかん。やっぱり登山道の整備であり、それからトイレであり、それから駐車場ですよ。駐車場が要所要所にきちっとしたものがあって、そこまでは車でみんな行くわけですから。そしてそのまま登れるようにしなきゃいかんと思いますね。

〔参加者〕

今言われた石割神社というのは、平日に見ていてましてもやはり定年された方ですね、夫婦とか、あるいは仲間を誘って行く、平日来られるんです。我々石割神社までは整備します。4月4日お祭りがあるものですから、平野区全員で道を作ったりということで一年に一回奉仕活動をするんです。そしてやはりその方たちもトイレがないと・・・。

〔知事〕

富士山もきれいに見えますからね、いいんだよね。そうですか、なるほどね。いや、これは我々も考えなければいけませんね。

しかし公共交通は困るね。富士急さんにがんばってもらわなければね・・・(笑)

〔参加者〕

おっしゃるとおりです。

そして高いんですよ。吉田から平野まで。お客さんから「時間は掛かる、金は掛かる。」と文句を言われて困っちゃうわけです。3時間掛かりますから、新宿まで。

〔知事〕

もっともだ。箱根はそういう意味じゃ、登山鉄道があるからいいやな。

〔参加者〕

御殿場からもバス出ていますし、安いし。

〔参加者〕

山中湖というのは、結構入り口の部分であると思うんですね。その他県と接している部分とかを活かして、あと富士山をアピールして何かお客様に知っていただければと思います。

まず山中湖自体を知らない方が非常に多いと感じる部分があるので、富士の国とか言っていますけど、もっと富士山という本当に分かりやすい言葉で宣伝していくというのも一つの方法だと思うんですね。

あと、私はまだこっちに来て4年しか経っていないんですけど、単体で観光施設が営業活動しているとすごい感じる部分があるんですが、箱根とかを見ていると全体で何かを・・・、点でなくて線で結ぶような観光のアピールの仕方ができればいいのかなと。山梨県に来たら一泊二日というふうに、一泊で帰らないで、一泊富士山周辺、もう一泊はどこかというようにいいのかなというふうに思うんですが。

〔知事〕

そうですね。端的に言うと、この富士五湖地方というのは箱根をターゲットにすればいいんですよ。箱根が競争相手なんですよ。箱根でやっていることでいいと思うことは真似をして、できるだけお客を取ってくるというのは非常に大事なんですよ。箱根というのは、やっぱりこれは観光地としては日本有数のノウハウを持っている観光地だと思います

よね。だからそれを大いに真似ながらやっていくべきだと思っているんだけども、まあそうですね、具体的にどういうことをやったらいいかだよね。

〔参加者〕

箱根はやはり電鉄の力というのが大きいですよ。小田急、西武がしっかり組んでいまずからね。

〔知事〕

しかし山中湖も色々な観光スポットはあるんですよ。徳富蘇峰とか三島由紀夫とか、色々面白いもの、すごく素晴らしいものができるというような話も聞くんだけど、いいと思いますね。

〔参加者〕

活かしきれていないような気もしないでもないです。

〔知事〕

まあ活かしきれてないと言えば活かしきれてないけど、それでもかなりいいと思うけどね。

〔参加者〕

前、観光雑誌の方に言われたんですけども、やっぱり箱根・神奈川と伊豆・静岡、あと長野、この3県に比べて山梨は知名度が低い。ちょっと前だったら温泉ブームなんて言われて、山梨は石和とかに温泉が昔からある所もあるんですけども、やっぱり長野の温泉とか箱根の温泉とかに比べると知名度がなかなかない。そこで同じ土俵で今から知名度を上げて競争するというのは、個人的には結構厳しいものだと思うんですね。

だから温泉とかでなく何かもう明らかに違う方向で、勝負をしていったほうがいいと思います。例えば結婚式とかを、山梨で結婚式を挙げましょうみたいなふうにすると、今もう日本中いろんな遠い所同士の人が結婚するので、東京で集まって結婚式とかをやりませんが、その時に大抵おじいちゃんやおばあちゃん、年配の方も来たりしますよね。そんな時に富士山の麓でやったほうがいいんじゃないのと。宿泊して、ホテルで結婚式とか、あとは教会とか、ドレスを借りられるとか、そういう結婚に特化して何かやったりする。結婚って一回に数百万か金使ったりする事業だったりするので、皆さんある程度大量にここで消費してくれるようになったりする。全く違うような着眼点を持ってやっていかないと、やっぱり伊豆、箱根に山中湖が勝っていくのは難しいかなというのが印象としてあるんです。

〔知事〕

まあそうですね。確かに旅行書、旅行ガイドブックに山梨単独というのはなかったんですよ。結局、伊豆、箱根にこの富士五湖が入ったり、そして信州なんてやつに清里が入

ったりして。それで旅行社に頼んで回ったりしたことがありますけどね。最近はやうやく少し出てきたんだけど、やっぱり甲府盆地そのものに旅行の魅力がなかったんですよ、今までね。石和温泉があったって、あれは観光地っていうんじゃない。まあ東京のお客が来て、わっと騒ぐ所だったわけでしょう。しかし最近、例えばあの辺でワインツーリズムだとか出てきましてね、山梨全体が一つの観光地としてまとまってくるようになってきましたからね。確かにほかのところはない何かをとというのは、まあこれこそ正に皆さんが考えてやることですね。ここで結婚式をとというのもいいけども、それは結局ホテルが考えることですね。まずその気にならなきゃいけませんね。

〔参加者〕

ホテル単体とかではやっているんですよ、実際に。それをもっと全体的に、結婚式を富士山の山梨県側でやるのをトレンドな流れにしないと。やっぱり一軒一軒がうちでは教会ありますよとか、披露宴できますよと広告を打ったところで、それは全然力にはならないので。

〔知事〕

それはそうですね。一時期軽井沢で結婚するのが流行りましたね。最近北海道の函館かな。ただ県がそういうことをやるのがいいのか。県というよりも、むしろ観光協会とか、そういうところが考えることだろうと思うんですが、しかし例えば芝桜の公園みたいなものができれば、それだけで一っと広がって、たちまち何十万ものお客が来るわけだから、まあ何かやっぱり新しい観光スポットみたいなものを開発していても、かなり可能性はあるところではありますよね。

〔参加者〕

よろしいですか。

その観光スポットというお話なんですけれども、例えば河口湖とかはかなりもう箱もの、いろんな施設は出てきておりますし、そういった観光地、まあ那須であったり伊豆高原だったり、そういう所はたくさんあると思うんですね。山中湖が向かっていくのは、やっぱりそっちではないと思うんですね。

そういう箱ものをどんどんどんどん造って行って若い子を呼んだり、そういう方向ではなくて、何もなくてもいい、でも自然がいっぱいあるとか、そういった、例えて言うと尾瀬であったり、ああいう方向に何か見出したほうがいいんじゃないかという気もすごくするんです。もちろんそれは村もやらないといけないことなんですけども、何かそういういい提案があったらと思います。

〔参加者〕

先ほど知事が河口湖はどんどんお客さんが増えているとおっしゃいましたけど、私が見ると河口湖では多くが手垢に見えてしょうがないんですね。将来、5年、10年先の観光がどうあるべきかと考えた時に、果たしてあの手垢のある観光地が将来も認知され続けるかどうか。例えばアメリカの国立公園やヨーロッパの観光地を考えた時に、やはり手垢

というのはつき過ぎたらもう取り返しのつかないことになってしまうと思いますね。

〔知事〕

なるほどね。ただ、今のような話になると、私はその本栖湖なんていうのは正にそうなんだと思うんですね。本栖湖、精進湖というような感じはね。だけど山中湖はそういう意味での手垢と言え、かなりついているようなところもあって・・・。

〔参加者〕

ただかえって本栖湖だと不便なんですね。ある程度手の入った自然の残し方というのが、やはり山中湖の着地点じゃないかなと。そこが一番将来的には受けるんじゃないと。余り何も、全く何もないと、これはこれでビジネスにはならない。

〔知事〕

確かにね。

〔参加者〕

よろしいでしょうか。

よく中国人のツアーが来るんですね。中国人のツアーというのは、要するにその場所、有名な所に行って写真をパチパチパチパチ撮ってそれで終わりなんです。自然を見ようとは絶対しないんです。ヨーロッパ人が来て自然を味わうのと違って、日本人もせかせかしていますから中国人とちょっと似ているようなところがある。昔メガネかけて写真を撮りまくった、あんなスタイルです。ゆとりが今後出てくればヨーロッパスタイルで、先ほど言われたように手垢がない自然な所にも来てくれるというのがあると思うんです。

でも、今の段階では、もうテニスブーム、ブームに乗ってお客さんがどんどんどんどん増える。何かイベントをすれば、ぱーんと来る。そういうふうな形。イベントで集客するような形、何か目的がないと旅行には行かないよと。ただ自然をのんびり楽しむような旅行は私はしませんという人はかなり多いと思うんですね。目的があるからそこに行くんだという、せかせかした気分。それが改善されない限りは、ゆとりのある観光地をつくってもなかなかお客さんは誘致できないと思います。したがって、もうイベントに走るしかない。そういった、もうほとんど日本中の観光施設、観光地というのはもうイベント頼りの形になっていると思いますよね。まあ花火にしてもしかり。花火がなくても、自然があって、そして温泉があって、景色が良ければ、そこで二泊も三泊もしてゆっくりと自然や施設を味わうことのできる観光地づくりを目指したほうがいいのかと。もっとゆとりが日本人に出てくればということですが・・・。

〔知事〕

那須なんていう所は何となくそんな感じがありますね。余りでかいイベントがあるわけじゃなし、またそんなにスポットがあるわけでもないけれども、何となく人が寄ってくるような感じがありますね。

〔参加者〕

皇室がよく行くからじゃないですか。

〔知事〕

皇室、それがあつるんですよ。

〔参加者〕

かなり増えていますね、那須は。

〔参加者〕

観光庁がからんで、最近日本で大体16か17の観光圏ということで、この地域も選んでいただいて、それは非常にうれしく思っています。富士山は自然と文化遺産と一緒に売り込むのがちょうどいいと思いますが、みんなこういういろんなアイデアがある人が、旅館業や観光地の方にいらっしゃるので、そういう面で自分でツアーを組んで、それを売れるようになったという画期的な法律もついています。けどところがよく見てみると、やっぱり国のやったことで、ちゃんとブレーキもついています、プログラムを色々考えるのはこっちなのに、観光会社の企画としてでないと売ることができないということになっているんですね。だから結局は観光会社を省略することができないというデメリットがある法律になっています。そこで山梨県としては観光立県として、その辺をもうちょっと緩和するような、我々も作って売れるようなことをしていただきたいと思います。

〔知事〕

着地型観光なんて言つて、最近では国のほうも盛んに観光会社の押しつけじゃなくて、それぞれ地元が、一番知っているのは地元の人たちなんだから、地元が提案をして、新しい観光企画、プランを練つて、そしてそれをどんどんどんどん売り出したらどうですかなんていうことを言いますけどね。

〔参加者〕

言っているんですけど、それを大手の観光会社にいた人とか、そういう人たちに聞いてみると、結局それをやったら観光業違反になるぞということなんですね。

〔小林観光振興課長〕

この4月に県ではやまなし観光推進機構という組織を立ち上げまして、そこで着地型観光商品の開発とか販売までやっています。地域のほうでは旅行業の資格を持っていませんので、代わりに地域の企画を商品化して売つてあげますというようなことまでやっています。手数料はいただきますけども、そういう形でできるようにしたところです。

山中湖でも一件、すでに商品化してホームページにも出ています。

〔参加者〕

それに参加しています。

〔小林観光振興課長〕

推進機構にはJTBとか近畿日本ツーリストとか日本旅行とかからノウハウにたけた人間が出向して来ておりますので、また気軽にご相談していただければと思います。

〔知事〕

そうですね。あのF1が静岡であったけども、また何かどうもだめになりそうだけど、あれは良かったですか。どうですか、ずいぶん山中湖は良かったですか。

〔参加者〕

平野旅館民宿組合で延べ4日間で3千人くらいです。

〔知事〕

4日間くらいね。その間は良かったということですね。

〔参加者〕

最初の年は良かったんですが、次の年は連休に重なっていたので、別になくてもよかったですね。なくても人が入るから。だから連休には重ねないでくださいって。ただ、最初の年は最初の年でスピードウェイがポカやらかして山中湖に来るバスが遅れたりして大変でした。

〔知事〕

どうですか。まあしかし、あれやめちゃうっていうの残念ですな。

〔参加者〕

少なくとも経済効果がありましたからね。

〔知事〕

ありましたからね。残念なことだね。

〔司会〕

どうですか。ご発言されていない方、悔いの残らないように・・・。

〔参加者〕

先ほどの手垢の話じゃないんですけども、観光業者の手垢に関しては民間のものなのでなかなか県で強制することは難しいと思うんですけども、先日箱根に行ったらガードレールが全部木で覆われているんですね。ガードレールはなきゃいけない、なくてはならないものですけども、それを隠してくれているんですよ、木で。この山中湖でもガードレールもそうですけど、最低限、湖畔の周遊の道路の電柱を地下に埋めるとかということを含めて、生活インフラの手垢は見えないように、県の力でしていただけると、まあ観光地と

してのイメージも大分変わってくる。そして、そういうようにしたこともやっぱり表に出して、山梨県はこういうことをしているよというのをアピールしていただけると、それを見に行きたいなというお客様も多いと思うんですね。

〔知事〕

電線の地中化というやつはね、特にこの富士五湖地域を中心に、もうできるだけ従来よりもずっとスピードをアップしてやろうということにしているんですけどね。しかしそうは言っても、結構時間が掛かって大変なんだけども、やりますから。

ガードレールが木というのはね。これは神奈川県は間伐材を使ってやっているんですよ。これは松沢知事の自慢の種でね。これは本当にいいことですよね。けどどうなんですか、ちょっと木が腐ったりとか何とかというのがあるんだけど、それは大丈夫なのかな。集成材みたいな使えば・・・。

〔参加者〕

村民あげて塗りますよ、それは。(笑)

〔知事〕

それは確かにいいと思いますね。これは確かに考えていかなければいけませんね。

〔参加者〕

それでは思い残すことないように・・・。

サイクリングロードを山中湖一周してほしいというのと、地デジが映るようにしてほしいのと、さっき出ましたけど光ファイバーを引いて欲しいです。

(一部エリアはNTTがサービス提供中)

〔知事〕

サイクリングロードは、地権者との話がまとまれば最優先でやりますよと、県は言っているんだけど、まとまったということですか。

〔参加者〕

そこはもう地権者の話は通っている・・・

〔知事〕

話が通っている。じゃ全部できるということだな。

光ファイバーは本当にその通りでね。やらなきゃだめですね。

〔高村山中湖村観光課長〕

今総務課のほうで進めている状況です。

〔参加者〕

山梨の地デジが4チャンネルしかないというのが悲しいんです。

〔知事〕

地デジは大丈夫ですよ。ここはCATVがありますよね。

〔参加者〕

それを見せるにはCATVは莫大な投資しないとなりません。結局それだけの体力がないからできないと。

〔参加者〕

光が入れば地デジは見えるんですよ。

〔知事〕

まあ光をね、使ってということはあるんですがね。

ただ、光を入れていくとなると、これはもう一番細かいところまで入れていかなければいけませんからね。これは南部町だとか上野原とかね、ああいう所が全部やりましたね。これはまた金が掛かる。ものすごい。だからその光ファイバーのブロードバンドとはまた別に、恐らく山中湖はとりあえずは地デジは別にやろうとしているんでしょうね。

地デジの話は相談センターがありますね。そこによく相談してもらいたいですね。なんたって2011年だから、余り時間ないものね。

〔司会〕

それでは話はつきないわけでございますけれども、予定の時間を大分経過しましたので締めには知事から感想を含めてごあいさつをお願いします。

〔知事〕

色々たくさんお話を聞かせてもらって大変に勉強になりました。ありがとうございました。大変に参考になる話で、我々も、あっこういうことはやっていかなきゃいかなんということが幾つもありまして、皆さんの意見を取り入れながら、是非ひとつ県としても観光行政をさらに進めていきたいというふうに思っております。何にしても山中湖というのは、山梨県にとっては大変に大事な観光資源ですからね。

まあ何と言っても、皆さん方がこの山中湖を支えているわけですから、是非一つ若い力でがんばっていただきたいというふうに思います。県のほうは県のほうとしてやるべきことはきちっとやっていかなければいけません、観光業者、旅行業者の皆さんもまた結束して、一緒にまたやっていかなければいけないことがあると思いますから、どうかよろしくお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

〔司会〕

それではこれもちまして『県政ひざづめ談議』を終了させていただきます。

ありがとうございました。